

トクヴィル著「アメリカのデモクラシー」第1巻(下)

岩波文庫 2005年12月16日刊を読む

アメリカ民主政の下における公務員について

1. アメリカの公務員の気取りのなさー制服はないー

(1)合衆国では、公務員は市民の群れの中に紛れこんでいる。官邸も護衛も制服もない。為政者のこの簡素さはアメリカ的精神に固有の傾向のみならず、社会の根本原理に由来するものである。

(2)民主主義の観点から見ると、政府は善ではなく必要悪である。公務員には一定の権力を認めねばならないが、それは権力なしでは公務員は何の役にも立たないからである。だが仕事を進める上で権力を誇示することは不可欠ではない。むしろそれは公衆の目を不必要に刺激する。

(3)公務員自身、万人と変わらぬ態度で振舞うという条件の下でのみ、人の上に立って権力を揮うことを認められているのだと完全に自覚している。

(4)アメリカの役人ほど行動様式が一貫し、誰でも接しやすく、要求に耳を傾け、丁寧に答える者は私には想像しがたい。

(5)私は民主政治のこの自然な足取りが好きである。役人より職務に、権力の見かけの飾りよりもその人自身に結びついた内面の力には何かしら雄々しいものが認められ、私はそれに賛嘆するのである。

(6)制服がもたらすとされる効用について言えば、現代のような時代にその重要性が誇張されすぎていると思う。アメリカで、公務員が職務の執行中、自分の能力以外に人を従わせる権威を何も身に帯びていないからといって敬意と尊敬を受けなかった例は、見たことがない。

(7)他方、役人に特別な衣装を着せたところで、本人がもともとその気でないときに、職務に誇りをもつかどうか大いに疑わしい。自分よりも官衣を大事にするとはとても思えないからである。

(8)われわれの国において、ある種の司法官が関係者を鼻の先であしらうかと思えば、これにお為ごかしを言い、攻撃されると肩をすくめ、訴追事項を列挙しては悦に入って微笑むのを見るにつけ、私は誰かが彼らの衣装を剥ぎ取ってしまえばよいのと思う。普通の市民の服

装になれば、彼らといえども人間に自然に備わる品位に立ち返るかどうか分かるというものである。

## 2. すべての公務員は有給である—この事実の政治的帰結—

- (1) 合衆国のいかなる公務員も制服をもたないが、給与はすべて受けている。
- (2) この点は前の点以上に当然に民主主義の原則から出てくる帰結である。ある種の民主政において、役人が贅沢ぜいたくに溺れ、豪華な衣装で身を飾っても、民主主義の原理それ自体が直接痛手を受けるわけでは必ずしもない。このような特権は一時的なものであり、個人ではなく地位に付随する特権である。だが無給の職をつくることは、金持ちで独立した役人階級を創出することであり、貴族制の種まを播くことである。人民はなお役人を選ぶことができるとしても、選択権の行使には必然的な限界がある。
- (3) 民主的共和政体が有給職を無給にすることがあれば、君主政体に向かって進んでいると結論してよいと思う。そして君主政体が無給の職に給与を出し始めたら、専制か共和政のあり方に近づいている確かなしるし徴である。
- (4) すなわち、無給職を有給職に変えることはそれだけで一つの真の革命にあたりと私には思われる。
- (5) 私は無給の公職がまったく存在しないところに、アメリカにおける民主主義の絶対的支配のもっとも明瞭な徴の一つを認める。公衆に向けてなされるサービスはどんなものであれ給与が支払われる。だからこそ、誰でもこのサービスを提供する資格があるというだけでなく、誰もが実際に働く可能性があるのである。

## 3. アメリカに公務員という職業はない—その帰結—

- (1) 民主政の国家では市民は誰でも公職に就けるといっても、誰もが役人になりたがるわけではない。立候補の条件ではなく、候補者の数や能力のために、選挙民の選択が限られることもしばしばある。
- (2) 選挙の原理がすべてに行き渡る国民においては、厳密に言うと、公共の職業は存在しない。人はいわば偶然に公職に就くにすぎず、その職にずっと留まる保証は何もない。選挙が毎年あるときには、とりわけそうである。その結果、静かな時代には、公職はあまり野心をそえられる対象ではない。合衆国では、政治の横道に引き込まれるのは望みの高くない人々である。一般に才能に恵まれ、情熱に燃える者は権力から遠ざかり、富を追求する。往々にして、自分自身の仕事をうまく処理できないと感じる者だけが、国家の運命を左右する役目を引き受けている。
- (3) 公職にある者の多くが凡人である理由は、民主主義による悪あしき選択と並んで、これらの

原因に帰すべきである。合衆国で、もしすぐれた人物が人民の支持を求めたとき、人民がこれを選ぶかどうかは分からないが、すぐれた人物が選挙に出たがらないのは確かである。

P64 ~ 68

[ コメント ]

アメリカの行政を支える公務員と、国民代表である選挙で選ばれた公務員についての基本的な考えがトクヴィルによって述べられている。非常に興味深い。日本の民主主義の原型ともいえるアメリカの民主主義から我々はもっと学んだ方がよい。

- 2009年7月29日林明夫記 -